

業界団体から要望聴取

民主県連、政府へ橋渡し

民主党県連は3日、政権与党となったことから、初めて県内の業界団体などを集めた「意見・要望を聴く会」を開いた。聴取した意見・要望は県連内で整理した後、党本部に伝えるほか、橋本昌知事に提出予定の県政要望に盛り込む方針。医療や建設関連の計20団体が参加。8月の衆院選で自民党を支持した団体も参加し、「支持政党についてはこれらの課題」などと、民主党との今後のかかわり方に戸惑う声も聞かれた。4日も開く予定で、参加団体は2日間で計39団体になる見通し。

3日は、党県連の藤田幸久参院議員ら国会議員3人と県議6人が水戸市の市民会館で、各団体ごとに意見・要望を聴いた。

県連は約100の業界団体などに案内を送り、39団体が参加を希望した。初日に参加した20団体の中には、県看護協会や県測量設計業協会、県造園建設業協会など内部に自民党の職域支部を置いたり、衆院選で自民候補を支持した団体も多かった。

県歯科医師連盟の比企利枝子理事長は「自民党政権時と同じく、

政権与党に対しては業界の課題や要望を伝える必要がある」と説明し、団体としての支持政党については「今後の課題」とした。

参加団体の多くは、政権交代後の政治的なスタンスについて、正式な方針を打ち出していないといい「すぐに民主支持に切り替えることにはならない」「現段階で新政権への期待をはっきり口にできない」と戸惑う声も聞かれた。

また、自民党の主要な支持母体である業界団体の一つは「案内状が届かなかつたので、

参加できなかった。これまで民主党とパイプがなく、こちらから

り、悩ましい」と話した。党県連は11月下旬、新ルールに基づく陳情窓口となる政策推進委員会を発足させた。今回、各団体から聴取した意見や要望についても、同委と常任幹事会で整理した上で、国政

や県政に反映できるように働き掛ける方針。

(斎藤敦)